

原子力機構バックエンドロードマップの IAEA ピアレビューについて

令和元年 8 月 19 日
研究開発局原子力課

1. 背景

日本原子力研究開発機構（以下「JAEA」とする）では、JAEA 全体の廃止措置に係る対策の見通しを「バックエンドロードマップ」として取りまとめ、昨年 12 月に公表した。同ロードマップにおいては、バックエンド対策（施設の解体、廃棄物の処理処分等）に要する費用として、約 1.9 兆円の試算額が示されている。この試算額は種々の不確定要素を含むため、継続的にその妥当性を精査する必要があることから、文部科学省及び JAEA において、海外機関を含む外部組織のレビュー等の実施を検討した。

2. ^{アルテミス}ARTEMIS の概要

国際原子力機関（以下「IAEA」とする）が 2014 年から開始した放射性廃棄物、使用済燃料管理、廃炉、除染に関する総合的レビューサービス。加盟国からの要請に基づき、レビューの対象範囲や内容を調整した上で、専門家を招集しピアレビューを実施する。これまで 9 回のレビューミッションを実施（フランス、ポーランド、イタリア公社 SOGIN 等）しており、今後、2023 年までに 17 回の実施予定がある。

3. JAEA バックエンドロードマップに対する ARTEMIS レビューの実施要請

1 及び 2 の状況を踏まえ、JAEA バックエンドロードマップにおけるバックエンド対策に要する費用について、試算手法を精査し、今後のバックエンド対策や費用の試算精度の向上につながる助言を受けることを目的として、文部科学省及び JAEA において ARTEMIS レビューの実施を決定した。本年 4 月に文部科学省より IAEA に対する正式要請文書を発出し、6 月に IAEA からの返信文書を受領した。

4. 今後の手順

文部科学省、JAEA、IAEA との間で、9 月に準備会合を開催し、ARTEMIS レビューミッションの実施時期や具体的なレビュー内容を調整する予定。

以上